

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）評価委員会

1 評価委員

委員長	岩田智也	学識経験者	山梨大学生命環境学部環境科学科	准教授
委員	三浦久	生産者（流通）	山梨県漁業協同組合連合会	副会長
委員	生原洋征	生産者（生産）	山梨県養殖漁業協同組合	組合長

2 課題評価委員会

平成 29 年 8 月 29 日（火） 水産技術センター本所会議室

- ① 中間評価課題「低魚粉飼料でのニジマス成長優良系統の選抜試験」 研究員 三浦正之
研究計画の進捗度 3.7 点

養殖業者にとって生産コストの削減につながる貴重な成果が得られている。とくに、超低魚粉飼料での選抜に成功しており、成長以外で良好な成績が得られている。今後も継続して研究を続けていただきたい。また、生産量あたりの給餌量や経費の試算、食味の評価についても行って頂きたい。

- ② 事後評価課題「特定波長光による効率的なニジマス養殖技術の開発」（中途終了） 研究員 三浦正之
研究目標の達成度 2.7 点

当初予定していた成果は得られていない。一方で、科学的な手順に基づき研究中止を判断している点は評価でき、光による効果がないことが明らかとなったことも意義深い成果である。また、ホルモンや成長に関する興味深い結果も得られており、成果を埋没させることなく学会などで公表していただきたい。

3 機関評価委員会

平成 30 年 1 月 25 日（木） 水産技術センター本所会議室

組織管理	4 点	適切な組織管理体制が整備されている。一方、少人数の職員で多くの事業を実施しており、人員の補充と効率的な事業運営が望まれる。
事業内容及び予算配分	5 点	関係者からの要望に基づき適切な研究課題の設定がなされている。観光漁業や県産品の振興・普及のための予算確保が必要である。急な支出にも対応できる柔軟な予算運用も検討すべきである。
施設の整備状況	4 点	老朽化した施設を有効活用している。事業の推進のみならず、防災や労務環境の観点からも、修繕や改修で対応できないものについては更新することが望ましい。
研究事業の成果	5 点	関係者からの要望を取り入れた研究事業において、多くの優れた成果が得られている。研究への取り組みも熱心であり、関係者からの信頼も厚い。また、得られた成果は学術的にも新規性や有用

性がきわめて高い。

普及啓発活動	4点	増養殖技術指導および広報誌による普及啓蒙活動は評価できる。ホームページやマスコミ、イベント等を通じた一般向けの広報活動をより積極的に行っていただきたい。
総合評価	5点	限られた予算と人員で、ブランド魚の開発や優れた試験研究成果を上げ続けており、評価できる。また、開発技術の実用化や環境保全に関わる試験研究課題にも力を入れている。水産関係者からの信頼も厚く、山梨県の水産業や地域振興のためにも今後の事業活動に期待したい。

《試験研究機関の処置》

限られた予算、人員ではあるが、引き続き県民からの期待に応えられるよう、適切な課題の選定、業務の効率化、適正化に努めていく。観光との連携やブランド魚の普及に努めるとともに、一般県民向けの広報活動についても、さらなる充実に努めていく。施設の整備においては計画的な修繕、改修、更新に努めていく。